

平成 26 年度事務事業評価調書

事業コード	04010104		区	分	☐ 実行 ☒ 経常
事務事業名	金剛山ロープウェイ管理事業	担当部署名	地域振興課		
		作成責任者職氏名	課長 北浦秀明	内線	455
第4次総合計画 体系	(基本柱)	(基本施策)	(細施策)		
	04観光・産業・地域振興	01観光の振興	01金剛山周辺の整備・集客増		
実施期間	☐ 単年 ☒ 継続 (昭和41年度～ 年度)		実施方法	☒ 直営 ☐ 委託 ☐ 補助等	
根拠法令等	☒ 有 ☐ 無	法令等の名称	索道法	義務付け	☒ 有 ☐ 無

I 事務事業の概要<Plan>

(1)事務事業の目的及び内容	(2)対象(誰を対象とするのか)
①目的 金剛生駒紀泉国定公園の利用増進を図るとともに登山者の利便に資する。 ②内容 ・平成16年度から(株)グルメ杵屋を指定管理者に指定。 ・ロープウェイの管理運営・運行を委託。利用料金制は採用せず、運賃収入を村収入とし、指定管理料を支払う。	村民及び村来訪者
(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)	(4)事務事業を進める上での課題や問題
乗客の増・安全確保等	指定管理が3年更新となっているため、継続した運営の確保に不安がある。

II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
		24 年度 実績	25 年度		26 年度 事業費(見込)	27 年度 事業費(見込)		
			事業費(予算)	実績(見込)				
事業費(見込含む)(千円)(A)		52,724	62,176	57,519	71,859	71,000		
財 源 内 訳	国庫支出金							
	府支出金							
	分担金・負担金							
	使用料・手数料							
	起債							
	その他の特財	52,724	62,176	57,519	71,859	71,000		
一般財源								
人 件 費	一般職員所要人員(人)(B)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	555	589	589	589	589		
総コスト費(千円)(A+C)		53,279	62,765	58,108	72,448	71,589		
人口あたりコスト(円)		8,792	10,357	9,589	11,955	11,813		
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	25 年度			26 年度 目標値	27 年度 目標値
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	乗客数	人	130,000	119,175	92%	130,000	130,000
②	目標指標	運賃収入	千円	70,000	62,579	89%	70,000	70,000
③	目標指標							

○目標指標評価値(達成率平均値) 181% / 2 = **91%** (A)

Ⅲ 事務事業の評価<Check> 1

(1)成果の自己検証			
評価項目	評価結果		評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	4	4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	金剛山への来訪客のアクセスの一つとして重要である。
②有効性 ※期待された効果が得られているか	3	4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	運賃収入により運営ができています。
③効率性 ※効率的に進められているか	3	4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	現在の指定管理条件では、単年度黒字を計上できている。
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	3	4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	運営収入で運営ができていますが、村住民への受益は間接的である。

○事務事業評価値
(①～④の合計／16) **13** / 16 **81%** (B)

(2)検証結果			
目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A) + (B) / 2	評価ランク(改善の目安)
91%	81%	86%	b
a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30～49%(休止・廃止又は縮小) b: 70～89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止) c: 50～69%(縮小又は見直し改善)			

Ⅳ 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	
B	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
②改善の方向性の理由、改善する上での具体的な改善策や課題等	
金剛山ロープウェイは、子どもから高齢者まで、気軽に金剛山への登山が楽しめるための交通機関であり、金剛山の観光資源の核となっている。今後も引き続き、継続事業として実施すべきと考えるが、平成16年度から導入している指定管理者制度において、今後の経営状況によっては継続的な指定管理者の確保が可能なかどうか不安がある。	

Ⅴ 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
子どもから高齢者まで、金剛登山を気軽に楽しむため、交通機関として必要があると考え。また、ロープウェイの老朽化に伴い、整備や入れ替え等を長期的に計画する必要があると考え。	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(2)第三者による有識者会議結果	
	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(3)行政経営戦略会議結果	
子どもから高齢者まで、金剛登山を気軽に楽しむため、交通機関として必要があると考え。また、ロープウェイの老朽化に伴い、整備や入れ替え等を長期的に計画する必要があると考え。	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止